

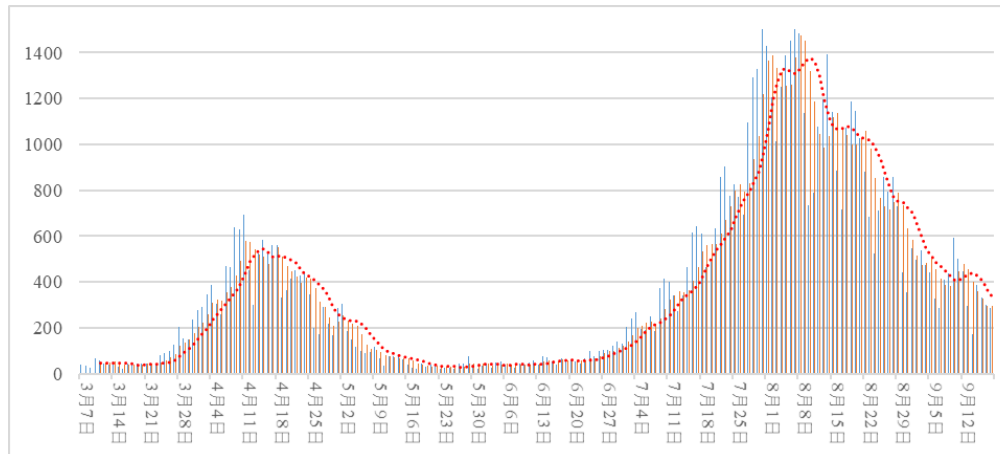
新型コロナウイルス感染症
流行シミュレーション作成事業
結果（2020年9月22日版）

群馬大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野

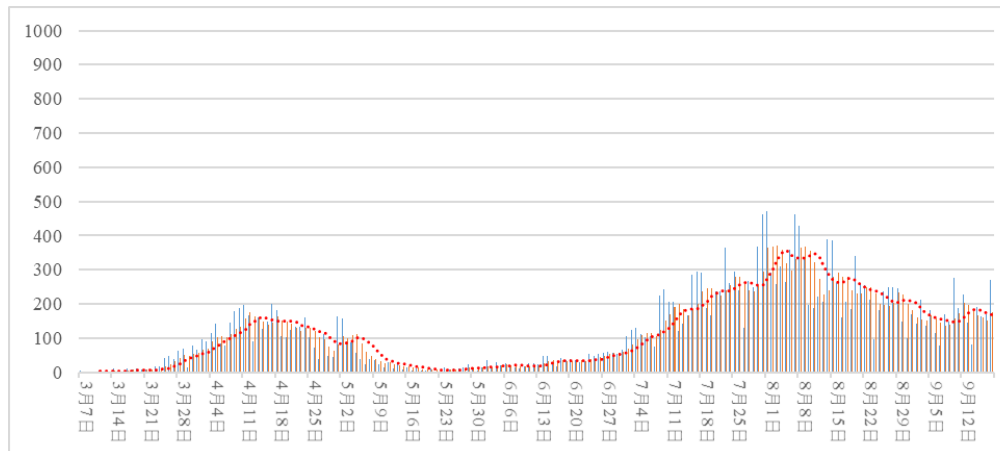
I 流行のリアルタイム評価

- 全国では2回目のピーク以降急速に減少しているが、東京は減少～横ばいである。

全国



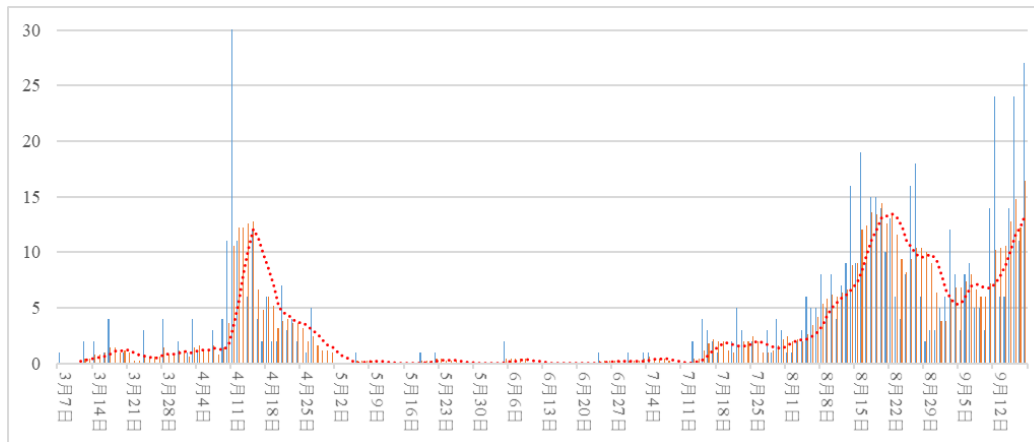
東京



青：報告者数
橙：移動平均（5日）
破線：橙の近似曲線

I 流行のリアルタイム評価

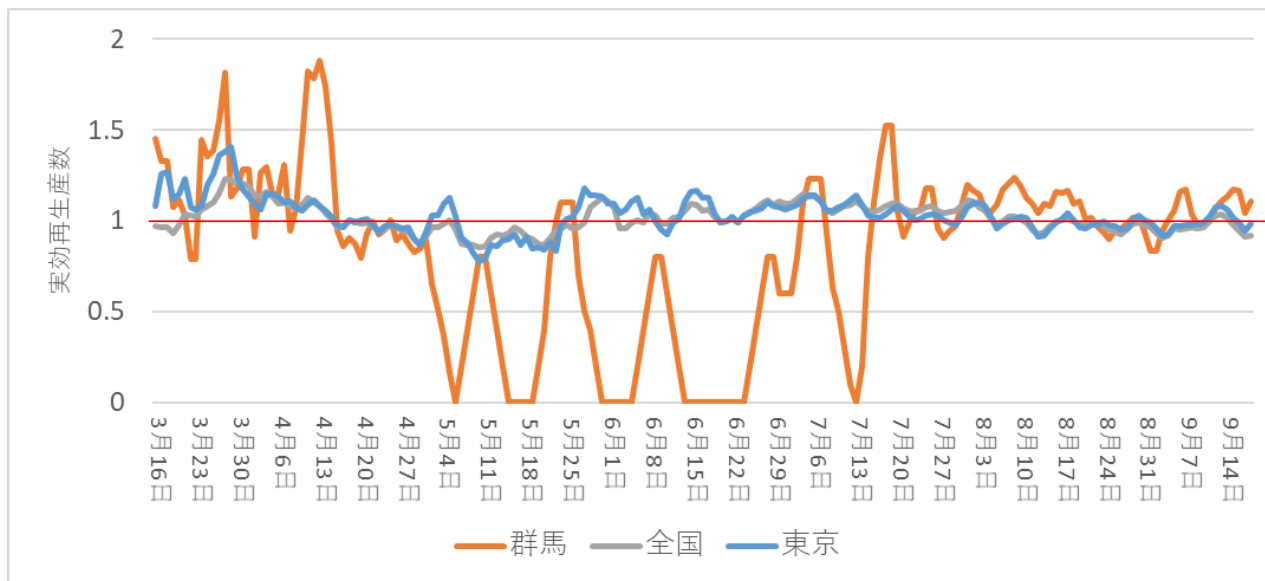
- 群馬県では8月中旬に2回目のピークを認め、それ以降一旦減少したものの、9月に入り再度増加傾向である。



青：報告者数
橙：移動平均（5日）
破線：橙の近似曲線

I 流行のリアルタイム評価

- 実効再生産数の推定値は，8月から全国，東京ともに1をやや下回っている（最新値：全国0.92，東京0.98）。
- 群馬県は9月から報告数が増加し，推定値は全国と東京を超えている。最新値は1.11。



まとめ

- 全国的にPCR陽性者等の報告数は減少傾向だったが、群馬県は増加傾向を示していた。
- 比較的若い世代で拡大していることが報告されている。会食や集会など行う場合は、感染対策を徹底することが求められる。
- 群馬県におけるコロナ対策では、年齢や性別などの個人背景にかかわらず、全ての県民に対する情報発信と啓発をおこなうことが重要である。
- 長期戦ではあるが、気を緩めずに引き続き感染対策を実施することが必要である。